

## 【タイ - 食品】

## 丸善製茶、今月末に北部の工場稼働へ

緑茶などを製造・販売する丸善製茶（静岡市）は、今月末にも北部チェンライ県の工場を稼働する。丸善製茶の古橋克俊常務が3日、バンコクでNNAのインタビューに応じ、明らかにした。まずは業務用を中心に販売し、将来的には茶飲料メーカーへの茶葉の供給などで生産量の拡大も模索する。年間の販売目標は70トンに設定した。



「タイは日本より広い範囲で営業できるため、販売が伸びる可能性が高い」と話す古橋常務（中央）＝3日、バンコク（NNA撮影）

工場には2ライン設け、深蒸し茶、浅蒸し茶、ティーバッグ、玄米茶、粉末茶の計5種を生産。年産能力は90～100トンで、品目別の生産比率は粉末が50%、茶葉が25%、ティーバッグが25%の見込み。当面はベーカリーや和食店など業務用に7割、小売り用に3割を販売する。小売りでは、1年ほど前から日本からの輸出品の一部卸しているザ・モールやセントラル系列の百貨店に加え、フードランドやピラ・マーケットなどのスーパーマーケットに営業し、「丸善」のブランドで12月中の販売開始を目指す。業務用は1キロ1,000～1,700パーツ（約3,460～5,900円）、小売り用は30グラム200～250

## 【タイ - 経済】

## 鉱工業生産マイナス3%予測、2年連続前年割れ

工業省工業経済事務局（OIE）は、今年通年の鉱工業生産指数の目標成長率を当初の前年比プラス1.5～2%からマイナス3%に引き下げる方針だ。2年連続のマイナス成長となる見通し。3日付ポストトゥデーが工業省筋の話として報じた。

昨年通年の指数がマイナス3.2%。今年は年初から9カ月の指数（2000年＝100、季節調整なし、速報値）はマイナス5.3%、9月単月でもマイナス3.9%と、回復の兆しが見えないことから、目標を下方修正する。「主因は輸出不振で、米国や欧州、中国、日本など輸出先国

パーツとなる予定だ。日本からの輸出品（小売り）はこれまで30グラム600パーツで販売していた。タイでは健康志向の高まりを受け、自宅でお茶を入れて飲む人が増えつつあり、水出して飲めるティーバッグや粉末茶が伸びる可能性が高いとみる。

丸善製茶は今年5月、タイのビール大手シンハ・コーポレーション子会社のブンロート・ファームと折半出資で合弁会社・丸善フード（タイランド）を設立。ブンロート・ファームが保有する600ライ（96ヘクタール）の茶畑に隣接した1ライ超の敷地を確保し、工場の設置を進めていた。

古橋常務によると、タイの緑茶市場は、日本からタイへの緑茶の輸出量は年間約130トンだが、業務用で中国やベトナム、インド、スリランカなどから多く輸入されており、競争力のある価格帯で高品質な緑茶をアピールすれば、業務用の販売が伸びる可能性は高いという。

## 茶飲料メーカーへの供給を検討

古橋常務は今後の展開について、「量産と品質確保の体制が整い次第、茶飲料メーカーへの茶葉の供給に踏み切る可能性がある」と明らかにした。既に大手茶飲料メーカーなどから引き合いを受けており、検討段階ではあるものの、より大規模な生産も選択肢としてあるという。また輸出では、茶葉のサンプルを生産次第、まず香港、シンガポール、台湾で営業を始める予定だ。東南アジア諸国連合（ASEAN）経済共同体（AEC）発足後は、ブンロートの販売網を通じ、タイの周辺国に輸出を始める計画。古橋常務は、「日本市場が縮小する一方、世界の緑茶市場は年間40%のペースで伸びている」と述べ、今後も海外事業の拡大を図る考えを示した。